



え と 文
市 原 茂 行

私 と 鳥

臃気な記憶だが、少年の頃小鳥を山で捕えて来て、自分で造った鳥籠で大事に飼っていたものです。ある日、突然の死に自分の大事なものを奪い去られたような気持になって落胆したものです。

その頃から私と鳥の対話が始ったようです。

私の絵のモチーフは鳥が多い。鳥の色彩や形体の美しさ、おもしろさ、あるいは鳥の生活の様子にひかれて描くのではない。そうかといって外的な美にひきつけられることが全然ないとはいえない。ただそれだけはなく、自然の真理とか自分の人生観、思想といった内的なものを鳥という対象を通して、画面に美的に再現するようにしています。(とかくきれいごとで事成れりとおさまるのではなく、反俗精神をいかなんくぶちまけ、時には醜悪さやグロテスクさの中にも美を求める。)それが絵画することだと思えます。

私と鳥との対話はまだ続くでしょう。

(香里中・高講師、日本画家)